

D 広葉 葉表は生時に特に皺状ではない

E葉(中脈除く)は両面ほぼ無毛か少毛;葉裏中脈に毛残らず?

F亜高山・山地生、乾地崖岩 新枝は無毛 葉の中脈・側脈は裏凸(葉縁付近は平坦、中脈付近は明凸)

葉表は毛僅少、すぐ無毛;表の中脈多毛、後ほぼ無毛;裏ほぼ無毛;裏中脈は毛僅少、後無毛〔シバヤナギ節シバヤナギ亜節2〕

(SGHKY、東北-八岳、亜高山-山地、乾地崖岩)(小低木;葉223広)【21シライヤナギ】

新葉は脱落性の毛に被われる 表はやや多毛、裏はすぐ無毛

葉表は毛僅少、すぐ無毛、中脈多毛、ほぼ無毛

葉裏ほぼ無毛、中脈は毛僅少、無毛、小枝基部の葉裏に艶ある伏軟毛あり

葉表は緑、艶あり;黄色味入るが個体差か;裏は粉白

葉表は中脈凹-凸、側脈平坦-やや凹感、細脈見難い

;裏は中脈・側脈は凸(葉縁付近は平坦、中脈付近は明凸)、時に細脈微凸;両面細脈ややみ難い

低波鋸歯-ひら凸鋸歯;乾くと縁は狭く裏に反る

成葉は卵形-長楕円卵形(上部葉楕円被針形)、40-80mm、巾20-40mm;円-浅心脚

葉柄上面多毛、無毛、葉柄3-10mm

托葉は鈍円頭、偏楕円形、無毛、鋸歯縁(縁は裏に反る);基部に腺なし-少数個

新葉赤味あり

新枝無毛;芽緑、有毛、今年枝は白毛あり、すぐ無毛、小枝微毛すぐ無毛、Y隆起条あり

普通丈20cm程(1m以上もある)

(G;葉基部が浅心形になると若葉に白長毛があるのを特徴として区別された)

(M55;基部の葉は必ず基部心形となる)

(Y;コマイワヤナギと混同されやすいが、本種は葉が細長くなく卵形、受粉後も腺体は淡緑のまま、花序もほっそりしている)

F関東南部-愛知、乾地崖岩 小枝軟毛あり 葉鋸歯は属中最も鋭い;裏側脈は平坦

若葉は両面長軟毛覆う 葉は両面無毛;葉裏中脈に毛残らず?〔シバヤナギ節シバヤナギ亜節3〕

(SGHKTY、関東南部-愛知、乾地崖岩)(低木;葉234広)【20シバヤナギ】

若葉は両面長軟毛覆う 葉は両面無毛、裏中脈に毛残らず?

葉は表鮮緑;裏粉白か帯白緑

葉の裏側脈は平坦

鋸歯は属中最も鋭い

成葉は被針-狭倒卵楕円形、変化多、40-120mm、巾13-40mm

葉柄3-30mm 托葉線-卵被針形、4-10mm

小枝軟毛あり、すぐ無毛;水平出で先多少下垂が多い

若葉しばしば紅帯びる

(Y;細く長い花序、鋭い鋸歯が特徴)

変品種:【ヤマネコキヌヤナギf;(S)成葉裏に絹毛】ホソバシバヤナギf;(SKT)葉は狭い】

【ヒロハシバヤナギf;(KT)葉は50-80mm、巾25-40mm、円-心脚;葉柄5-8mm】

【キヌゲシバヤナギ;(YK、箱根乙女峠-金時山、丹沢)新葉両面絹毛密で銀白;成葉は被針形、葉裏にも毛残ることあり;隆起条あり】

(T;非常に変異多く次の形が認められるが、各品種の境は分明でない場合がある。基準品種シバヤナギ、ヒロハシバヤナギ、ホソバシバヤナギ、チャボシバヤナギ。多分、後2種は区分できない)

F四近畿以北、山地-丘陵、乾地 若枝は散毛、後無毛、1年枝無毛 葉の中脈・側脈・細脈は裏凸

葉表は中脈に微毛疎生、後ほぼ無毛;葉裏は少毛散在;脈上長軟毛やや多数、後ほぼ無毛

〔バッコヤナギ節2=ヤマネコヤナギ節〕

(SGOHKTY、四近畿以北、山地-丘陵、乾地)(小高木-高木;葉233広)【10バッコヤナギ幼木=ヤマネコヤナギ】

(14pバッコヤナギ参照)

幼木例;葉表はほぼ無毛、中脈に微毛疎生、ほぼ無毛、葉裏は少毛散在、脈上に長軟毛やや多数、ほぼ無毛

葉表深緑;裏粉白

葉表幼木例;生時は中脈・側脈がやや凹、余り皺にならず

葉裏は中脈・側脈・細脈まで裏凸;細脈透視、やや不透視;側脈先はややみだれ、やや肋脈(注)

低波鋸歯-ひら鋸歯-ひら凸鋸歯;乾くと極狭く縁が強く裏に反り全縁にみえる

成葉は楕円-長楕円形;巾30-40mm、60-150mm;鈍-円脚、生時に縁は上下に波曲する;革質

葉柄は微毛多、微毛少、葉柄10-20mm

托葉は小H大C、斜腎形、円頭H鋭頭、托葉痕やや不明、小?

新葉の側縁は軽く裏巻きする

若枝は散毛、微毛残、芽無毛、1年枝無毛、隆起条がある